少年の規範意識に関する
調査・研究

平成11年6月

規範意識調査研究会

少年の規範意識に関する調査研究

目　次

序　調査研究の概要 …… 1
1　研究目的 …… 1
2　調査研究の内容・方法 …… 1
3　調査実施期間 …… 2

第１部　質問紙調査

第１章　少年に対する質問紙調査 …… 3
第１節　質問紙調査の概要 …… 3
1　方法および調査対象者 …… 3
2　調査内容 …… 3
第２節　調査対象者の属性 …… 5
1　家庭の状況 …… 5
2　所持品 …… 7
3　警察官のイメージ …… 9
4　まとめ …… 10
第３節　規範意識の実態 …… 11
1　社会的逸脱行動に対する許容性 …… 11
2　犯罪・不良行為に対する実行予測 …… 15
3　社会的逸脱行動の合理化 …… 20
4　社会的逸脱行動に対する悪質意識 …… 24
5　メディア情報に対する同調の程度 …… 29
6　まとめ …… 34
第４節　非行抑止要因 …… 36
1　現在の生活の満足度 …… 36
2　現在の家庭の状況 …… 37
3　現在の学校の状況 …… 38
4　犯罪抑止理由 …… 40
5　犯罪遂行後の将来予測 …… 42
6　犯罪抑止を阻害する要因 …… 46
7　まとめ …… 47
第５節　規範意識形成要因 …… 49
1　親子関係 …… 49
2　家庭のしつけ …… 51
3　規範意識形成を阻害する要因 …… 54
4　まとめ …… 56
第２章　保護者に対する質問紙調査 …… 57
第１節　質問紙調査の概要 …… 57

1　方法および調査対象者 …… 57
2　調査内容 …… 57
第2節　調査対象者の属性 …… 59
1　年齢 …… 59
2　子どもの数 …… 59
3　子供についての心配や不安 …… 60
4　まとめ …… 61
第3節　保護者の規範意識の実態 …… 62
1　少年の逸脱行動や生活上の行動に対する学齢別許容性 …… 62
2　少年の社会的逸脱行動に対する悪質意識 …… 66
3　まとめ …… 70
第4節　少年の非行抑止阻害理由と規範意識形成要因 …… 71
1　少年の非行抑止を阻害する理由 …… 71
2　家庭のしつけ …… 72
3　まとめ …… 75
第5節　子どもに問題があるときの対応 …… 76
1　配偶者への相談 …… 76
2　警察に対する期待 …… 77

第2部　事例研究

はじめに …… 85
第1章　事例研究の概要 …… 86
1　方法 …… 86
2　調査対象事件 …… 86
第2章　少年の属性に関すること …… 90
1　事件発生前の問題行動の経験 …… 90
2　家庭の状況 …… 90
3　学校(職場)生活および友人関係 …… 91
4　まとめ …… 92
第3章　事件の原因・背景 …… 93
1　直接の動機 …… 93
2　原因となった背景 …… 93
第4章　当該少年の規範意識 …… 94
1　規範意識の有無 …… 94
2　規範意識の形成要因 …… 94

付　表

1　調査票
(1)　少年用調査票
(2)　保護者用調査票
2　単純集計結果
(1)　少年の調査結果
(2)　保護者の調査結果

序

調査研究の概要

1　研究目的

最近の少年非行の情勢は、戦後第４のピークの上昇局面にあり、凶悪・粗暴な非行が深刻化するなど、厳しい局面が続いている。そして、その背景の１つとして最近の少年の規範意識の低下が指摘されている

規範とは何か。社会学事典（弘文堂刊）によると、ある行為が「一定の型へと制約されているとき、そこで制約機能を発揮する価値・慣習・制度・法などが規範と呼ばれる。」とある。そして、社会学小事典(有斐閣刊)は、規範は「すべて、それへの同調のチャンスを高めるような社会的サンクション(報酬と罰)を伴っている。」とし、さらに「パーソナリティに内面化されて規範意識を形成する。」とある。

本調査研究では、質・量ともに悪化をたどる少年非行の現況に鑑み、少年の非行を抑止すると考えられる規範意識の実態とその形成要因について明らかにし、非行防止対策樹立のための資料を得ることを目的とする。

2　調査研究の内容・方法

上記目的のため、以下の２つの調査を実施した。

(1)　質問紙による調査

一般少年とその保護者、および、非行少年とその保護者を対象に、少年の規範意識の実態や少年非行の抑止要因、規範意識の形成要因等について質問紙により調査を実施した。

調査実施期間は、平成11年３月から５月までであった。

(2)　事例研究

実際に発生した少年事件を対象に、補導・検挙された少年の性格特性や家庭の状況、学校生活、友人関係等について、主に事件を担当した警察職員から面接による聞き取り調査を実施し、事件の発生原因や当該少年の規範意識の実態および形成過程等を明らかにしつつ、現代の非行少年が抱える規範意識とその周辺の問題点を探った。

調査実施期間は、平成10年５月から平成11年４月までであった。

3　調査実施機関

規範意識調査研究会を平成10年4月1日に設置し、調査研究を実施した。研究会の委員は以下のとおりである。

代表　横　山　　実（國学院大学教授）
　　内　山　絢　子（科学警察研究所防犯少年部部付主任研究官）
　　岡　部　享　市（科学警察研究所防犯少年部補導研究室主任研究官）

なお、本調査のうち、一般少年の調査の実施、および、本報告書の印刷に関しては、(財)社会安全研究財団の助成を受けて実施したものである。

第一部　　質問紙調査

第１章　少年に対する質問紙調査

第１節　質問紙調査の概要

1　方法および調査対象者

10都道府県（北海道・秋田・東京・神奈川・石川・大阪・山口・鳥取・愛媛・福岡）の中学校・高校の各学年１クラスの生徒≪一般群とする≫、および、全国の警察で非行少年として補導・検挙された中学生・高校生≪非行群とする≫を対象者として質問紙による調査を実施した。

調査期間が、平成11年３月から５月と旧年度・新年度にまたがったため、一般群・非行群ともに、旧年度は、中学校が１年・２年・３年、高校が１年・２年の生徒に実施し、新年度については、中学校が２年・３年、高校も２年・３年の生徒に実施した。調査対象者の男女別身分別の内訳は表１のとおりである。

表１　対象者の男女別身分別内訳

		中学生		高校生		計	
一般群	男子	４９３	８６６	４８４	７５０	９７７	１６１６
	女子	３７３		２６６		６３９	
非行群	男子	２４７	３２７	２２０	３１３	４６７	６４０
	女子	８０		９３		１７３	

身分別では、一般群が中学生53.6%高校生46.4%に対し、非行群では中学生51.1%高校生48.9%であり、ほぼ同じ割合であった。男女別では、一般群が男子60.5%女子39.5%に対し、非行群が男子73.0%女子27.0%であり、非行群の方がやや男子の比率が高かった。

2　調査内容

１．少年の規範意識の実態

１）犯罪・不良行為等に対する許容性

２）犯罪・不良行為に対する実行予測

３）犯罪に対する合理化

4）社会的逸脱に対する悪質意識

5）メディア情報に対する同調の程度

2．非行抑止要因

1）現在の生活の満足度

2）現在の家庭の状況

3）現在の学校の状況

4）犯罪抑止理由

5）犯罪遂行後の将来予測

6）犯罪抑止を阻害する理由

3．規範意識形成要因

1）親子関係

2）家庭のしつけ

3）規範意識形成を阻害する要因

4．少年の属性に係わる内容

1）同居家族

2）両親の就労状況

3）所持品

4）警察官のイメージ